

●盲ろう幼児児童生徒が在籍（教育相談を含む）している場合は、以下の

調査票2の各設問にご回答ください。

●対象となる幼児児童生徒1名につき、1部ご記入ください。

調査票 2

学校名： _____

記入者： _____

* ご記入いただいた内容について、お問合せさせていただく場合があります。
差し支えなければご記入ください。

Q 4. 対象者について

(1) 対象者の学部・学年について

1) 性別：

() ①男

() ②女

2) 所属及び学年等：

() ①幼稚部 (歳児)

() ②小学部 (年生)

() ③中学部 (年生)

() ④高等部 (年生)

() ⑤高等部専攻科 (年生)

() ⑥教育相談【幼児 (歳児)、小学生 (年生)、

中学生 (年生)、高校生 (年生)、高校卒業生以上】

* 教育相談幼児児童生徒が他の特別支援学校在籍の場合は以下の ()
に○印を付けてください。 ()

(2) 視覚障害について

1) 測定視力：(不明・測定不能の場合はその旨記述して下さい)

裸眼視力 右： 左：

矯正視力 右： 左：

2) 視野障害：

() ①ある

() ②ない

() ③不明

3) その他の視覚障害： ()

4) 視覚障害の原因 :

- ①アッシャー症候群
 ②未熟児
 ③先天性風疹症候群
 ④CHARGE 症候群
 ⑤サイトメガロウイルス感染症
 ⑥ダウン症候群
 ⑦事故
 ⑧髄膜炎
 ⑨中枢性障害 (皮質盲等)
 ⑩その他 ()
 ⑪不明

5) 普段使用している補助具等 (複数回答可) :

- ①眼鏡
 ②拡大レンズ
 ③単眼鏡
 ④拡大読書器
 ⑤遮光眼鏡
 ⑥その他 ()
 ⑦なし

(3) 聴覚障害について

1) 測定聴力 : (不明・測定不能の場合はその旨記述して下さい。)

裸耳聴力	右 :	dB	左 :	dB	両耳 :	dB
補聴器装用時聴力	右 :	dB	左 :	dB	両耳 :	dB

2) 難聴のタイプ :

- ①伝音性
 ②感音性
 ③混合性
 ④不明

3) 聴覚障害の原因 :

- ①アッシャー症候群
 ②未熟児
 ③先天性風疹症候群
 ④CHARGE 症候群
 ⑤サイトメガロウイルス感染症
 ⑥ダウン症候群
 ⑦事故
 ⑧髄膜炎
 ⑨中枢性神経障害
 ⑩その他 ()
 ⑪不明

4) 普段使用している補装具等を教えてください。あてはまる番号全てに○をつけてください。

- ①補聴器
 ②人工内耳

- () ③FM 補聴システム
 () ④その他 ()
 () ⑤なし

Q 5. 日常の見え方の様子

対象の幼児児童生徒の日常生活における見え方について、あてはまる番号に○をつけてください。なお、眼鏡等補助具使用の場合はその状態でお答えください。

- () ①光も感じない。
 () ②明るい光は見える。
 () ③目の前で手を動かせばわかる。
 () ④目の前の指の本数が数えられる。
 () ⑤大きな文字を読める。
 () ⑥小さな文字を読める。
 () ⑦不明

* ⑤の大きな文字は、新聞の大見出し程度、⑥の小さな文字は通常の教科書の文字程度とします。

Q 6. 日常の聞こえ方の様子

対象の幼児児童生徒の日常生活における聞こえ方について、あてはまる番号に○をつけてください。なお、補聴器等補助具使用の場合はその状態でお答えください。

- () ①話し声を全く聞き取れない。
 () ②耳元で大声なら聞き取れる。
 () ③少し離れても大声なら聞き取れる。
 () ④少し離れても普通の話し声を聞き取れる。
 () ⑤不明

Q 7. 視覚と聴覚以外の障害の有無

視覚と聴覚以外の障害がある場合は、あてはまる番号全てに○をつけてください。

- () ①知的障害
 () ②肢体不自由
 () ③病弱
 () ④その他 ()

Q 8. 医療的ケアの必要性について

対象となる幼児児童生徒に医療的ケアは必要ですか。医療的ケアが必要な場合、その内容を記入ください。

- () ①医療的ケアが必要である ()
 () ②医療的ケアは必要ない

Q 9. 対象となる幼児児童生徒の指導体制

- () ①個別
 () ②集団
 () ③個別と集団の両方

* 個別と集団の両方の場合、こういった場面で個別と集団での指導体制

をとっているかをご記入ください。

()

Q10. 対象となる幼児児童生徒のおもなコミュニケーション方法

対象となる幼児児童生徒が、自分の思いや意図等を周囲（教員）に伝える主なコミュニケーション（表出）方法は何ですか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

- () ①泣き声や表情
- () ②実物（オブジェクトキュー）を示す
- () ③身振り
- () ④手話
- () ⑤指文字
- () ⑥点字
- () ⑦指点字
- () ⑧普通文字
- () ⑨話しことば
- () ⑩キュード・スピーチ
- () ⑪写真や絵
- () ⑫その他：()

Q11. 担当する教員の主なコミュニケーション方法

担当する教員が自分の意図等を対象の幼児児童生徒に伝える主なコミュニケーション方法は何ですか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

- () ①直接、身体に触ってガイドする
- () ②実物（オブジェクトキュー）を示す
- () ③身振り（触っての身振りも含む）
- () ④手話（触手話も含む）
- () ⑤指文字（触指文字も含む）
- () ⑥点字
- () ⑦指点字
- () ⑧普通文字、拡大文字
- () ⑨口話、話しことば
- () ⑩キュード・スピーチ
- () ⑪写真や絵
- () ⑫その他：()

Q12. 担当者について

1) 担当の教員について

- () ①基本的に一人に固定している
- () ②特定の担当者が数人いて、その教員だけが関わる
- () ③特定の担当者はいるがそれ以外の教員も関わる（教科等によって）
- () ④その他：()

2) 主たる担当教員が、現在担当している子ども以外に盲ろう幼児児童生徒に関わった経験はありますか。

- () ①ある
- () ②ない

Q13. 校内における経験者の有無

校内に盲ろうの幼児児童生徒の指導経験者はいますか。

- () ①いる
() ②いない

Q14. 研修の必要性

盲ろう教育に関する研修の必要性の有無とその理由について伺います。

- () ①必要性を感じている
理由：()
() ②必要性を感じていない
理由：()

Q15. 希望する研修の方法について（研修の必要性を感じている場合に回答ください）

研修の必要性を感じている場合、希望する研修の方法について、あてはまるもの全てに○をつけてください。

- () ①国立特別支援教育総合研究所における研修など、全国レベルでの研修
() ②教育センターでの研修など、都道府県レベルでの研修
() ③在籍校等に講師が出向いての研修
() ④インターネットを利用した講義配信
() ⑤その他 ()

Q16. 希望する研修の内容について（研修の必要性を感じている場合に回答ください）

研修の必要性を感じている場合、希望する研修の内容について、あてはまるもの全てに○をつけてください。

- () ①専門家などの講義
() ②対象の幼児児童生徒への関わりや課題を一緒に検討する実践型研修
() ③盲ろうの幼児児童生徒の教育を実践している学校や施設の見学
() ④コミュニケーション手段の研修
() ⑤教材・教具・補助具の研修
() ⑥盲ろう当事者の話
() ⑦保護者支援の在り方
() ⑧その他 ()

Q17. 連絡機関

対象の盲ろう幼児児童生徒者の教育等に関して、これまで連絡をとった機関がありますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

- () ①他の特別支援学校
() ②都道府県市の教育委員会・研修センター
() ③国立特別支援教育総合研究所
() ④医療機関
() ⑤その他 ()
() ⑥ない

Q18. 研究所発行物の活用

当研究所が作成した以下の研究成果報告書やリーフレットを活用していますか。
活用しているもの全てに○をつけてください。

- () ①リーフレット【みなさまの身近に視覚と聴覚の両方に障害のある「盲ろう」のお子さんはいらっしゃいませんか？】
(平成 29 年 2 月発行)
- () ②盲ろう教育における教員の専門性向上のための研究
(平成 21 年 3 月発行)
- () ③「盲ろう二重障害」インターネット教員研修システム構築にむけた調査・開発研究
(平成 18 年 3 月発行)
- () ④その他 ()
- () ⑤活用しているものはない

Q19. 担当者が感じている困難点

対象の盲ろう幼児児童生徒の教育について、担当者が困難に感じていることはどのようなことですか。自由にお書きください。

Q20. 自由記述

その他、盲ろう幼児児童生徒の教育について感じていること等をお書きください。

以上で終わりです。
ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。